



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.89
六甲の宮水と酒造り
／泉 勇之介
2010年8月発行



第89回テーマ： 六甲の宮水と酒造り

講演内容

- 六甲の宮水が生命線
- 「灘泉」の創業と銘酒造り
- 灘五郷唯一の木造の酒蔵



講師：泉 勇之介さん

プロフィール

1943（昭和18）年生まれ、66歳、神戸市出身。幼稚園から大学まで甲南学園。大学卒業後半年間、東京の醸造試験所に出向。その後、製造から販売まで酒造りの経験を重ねた。昭和60年から「泉勇之介商店」3代目に就任。阪神大震災で蔵の屋根が壊れる被害を受けたが、修復した。

灘泉の木造の酒蔵

実施日：平成22年8月21日（土）
午後1時～3時45分
場所：六甲山自然保護センター

猛暑の六甲山で熱心に参加

午前10時の記念碑台は晴れて30℃、下界の猛暑に巻き込まれました。環境整備の定例活動には11名が参加し、第2期アセビ実験区の樹木調査などに汗を流しました。

午後の市民セミナーには25名が参加し、銘酒「灘泉」の試飲もあって盛り上がり、質疑応答に熱がこもりました。

昔ながらの酒造りを続ける泉さん

講師の泉 勇之介さんは明治時代に創業した「灘泉」の3代目です。「灘泉」は灘五郷の一つの御影郷（みかげごう）にあり、石屋川の河口に位置しています。平成7年の阪神大震災で灘の酒蔵は壊滅的な被害を受けました。「灘泉」は壊れた2階部分を修復して、唯一の木造酒蔵として復活しました。泉さんは杜氏でもあり昔ながらの伝統を活かした酒造りに注力されています。

話しぶりは控えめですが、酒蔵の風情を守り、銘酒を造り続ける信念がうかがえます。復活した酒蔵の2階には貸し舞台も用意されており、涼しい時季になると、演芸愛好グループなどが催しで活用しています。



木造酒蔵内部、2階の舞台

日本酒を造り飲む文化の伝承

市民セミナーの冒頭で、六甲山の宮水について紹介されました。ミネラルを含む硬水で、3～5mの浅井戸であること、山麓の急峻な7つの河川についても知りました。

続いて、灘の酒造りの特長として4つ。宮水の発見、良質の米、杜氏の存在、そして立地や気候風土が全国一の酒どころにしていると説明されました。

次はご専門の酒造りのお話です。世界の3つの醸造方法のうち、日本酒はもっとも複雑な「並行復発酵」であること、

それは遠い先祖の知恵で日本の文化だと強調されました。

日本酒の造り方は動画で段階的に解説していただきました。さらに日本酒の味わい方や、ガン細胞の抑制効果にも話題が進みました。銘酒「灘泉」3種の試飲もさせていただき、「酒は百薬の長」と日本酒の良さを再考しました。

灘五郷唯一の木造酒蔵である「灘泉」と一帯の様子、そして、昭和30年代の風景も説明されました。鉛筆スケッチ画で有名な浅井審一さんが、震災前に描かれた木造酒蔵のスケッチ画数点をお持ちになって紹介されました。参加者が酒蔵の風情を残すことの大切さを痛感しました。

素朴な酒造りと木造酒蔵に共感が集まった

泉さんは時代の変遷について「大量生産・大量消費が果たして良かったのか？」とつぶやかれました。昔ながらの酒造りを続け、木造酒蔵を復活された背景には、時代を超えていこうとする気骨がうかがえます。ほろ酔い加減？の気分を満喫しながら、伝統産業や地域文化を大切にすることも啓発されました。

※詳しくは、1・2ページをお読みください。

参加の感想 福岡 省悟さん

今日は初めてセミナーに参加させていただきました。朝9時に阪急六甲駅で会員の方の車に便乗し記念碑台の六甲山自然保護センターに到着。簡単な説明を受け整備活動の準備、一人前に道具を身につけ山に入り作業を行いました。気がつくると溶け込んで作業をしている自分がいました。2時間ほどの作業でしたが、保護センターに戻り昼食をとり午後のセミナーに参加。

今回は幸運にも酒造りとお酒の試食がありアツという間の日でした。六甲山の環境保全活動にも参加でき、充実した一日を過ごせました。ありがとうございました。



主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

セブンイレブン記念財団、大阪コミュニティファンド（東洋ゴムグループ環境保護基金）、子どもゆめ基金、コベルコ自然環境保全基金、コープこうべ環境保護基金